徳島県英語指導研究会 令和4年度活動報告

徳島県立城ノ内中等教育学校・高等学校 和泉 太輔

1 はじめに

昨年度まで英語ディベート研究会として活動してきた本研究会は、より広く英語指導全体について考える組織とするために、本年度から名称を「英語指導研究会」と変更した。本研究会は目的を大きく2点掲げている。1つ目は、英語教育における指導法・実践研究等の研修環境を外国語学会会員へ提供すること。2つ目は、新学習指導要領における授業実践に向けて、英語ディベートの県内の普及を推進することである。

活動の幅を少しずつ広げながら、急速に発展している大都市部の英語教育の実情を鑑み、地方都市徳島県においても世界基準かつ都市部以上の英語教育を生徒に提供できるように教員がともに学び、刺激し合い自己成長につなげ、特に若手の先生方が成長できる場を創っていこうとしている。

この研究会では、英語ディベートの普及を目的の1つに掲げているが、ディベートを一つの教育手段として、英語の4技能向上へのその教育効果を示し情報提供をしながら、興味のある先生を増やしていくことを目標にしている。重要であるのは、本研究会の活動を通して、徳島県の外国語学会員の先生方へ生産的かつより実践的な情報を提供することである。先生方が自分の興味関心に基づき少しずつでも日々、授業研究を行いながら、より良い授業を生徒へ提供し、生徒の英語運用能力が一層高まるための「英語指導を考える空間作りや思考の場」を今後たくさん発信したいと考えている。

今年度、ご多忙中にもかかわらずご協力いただいた先生方に感謝の意を示すとともに、今年度の活動を振り返りながら、次年度への展望を考えてみたい。

2 活動記録

- 4月～
 - ①外国語学会理事会にて「英語指導研究会」として組織の改組の承認を得る。
 - ②昨年度の課題の振り返り、今年度の年度計画の策定
 - ③メーリングリスト参加依頼・調整
- 4月16日 HEnDA（準備型ディベート）教員対象オンライン説明会実施（講師：和泉）
- 6月19日 パーラメンタリーディベート生徒向けオンライン練習会（講師：河野周【聖光学院】）
- 6月21日 オンライン英語授業研究会（講師：堀拓真【徳島北】）
- 7月17日 オンライン英語授業研究会（講師：美馬智志【富岡西】）
- 8月11日 第1回英語ディベートパーラメンタリー交流大会（オンラインツールZoomにて）
参加校：城ノ内、徳島北、徳島市立（計3校） / 総括：浅田真吾【城ノ内中等】
- 9月～（1月） 徳島県教育委員会作成の英語ディベート指導用DVD制作サポート開始

11月 3日 第4回徳島県英語ディベート大会（オンラインツール Zoom にて）

議題：That the Japanese Government should abolish the mandatory retirement age systems.

（日本政府は、定年制を廃止すべきである。是か非か。）

参加校： 城東，城ノ内，徳島北，富岡西，阿波 （計5校）

サポート：神戸大学附属中等教育学校

優勝：城ノ内中等教育学校 準優勝：徳島北高校

12月 3日 英語指導セミナー〔授業と評価の一体化〕（講師：鈴木渉〔宮城教育大学〕）

12月 17～18日 第17回全国高校生英語ディベート大会“Online”

【徳島県代表：城ノ内中等，結果：23位〔64位中〕（3勝1分2敗：7 votes）】

2月 4日 ALT対象英語ディベートセミナー（講師：和泉）

2月 23日 第2回英語ディベートパラメンタリー交流大会（オンラインツール Zoom にて）

参加校：城東，城南，城ノ内，徳島市立，徳島北，富岡西 （計7校）

春休み 教員対象セミナー開催予定（仮題：外部試験を授業で活かすには）

3 今年度の成果と課題

〔成果〕

- （1）これまでの英語ディベートの県内普及のみに焦点を当てた活動ではなく、英語指導全般について考える機会を提供できたと考えている。特に第2言語習得研究の世界的研究者である鈴木渉教授からオンラインで講義をいただき、参加された多くの先生から好意的な意見をいただいた。
- （2）英語指導について学び合う土台ができたように感じる。特に20～30代の先生が日頃の実践をまとめ、実践発表を行う場を設定できた。若手から中堅の先生が指導についての考えを発信し、他世代の教員と議論を通してお互いが思考を深める環境ができた点は将来の徳島県英語教育を考える上でも成果があったと考えている。今度もこの活動は継続していきたい。
- （3）英語ディベート関連では、今年度も高校生英語ディベート日本代表ヘッドコーチの河野周先生を講師に招き、生徒対象ディベート練習会ならびに教員対象ディベート指導講習会を提供できた。
- （4）英語ディベート（準備型）の全国大会では本県代表チームが3勝し、本県史上最高成績23位になることができた。4年前から本県代表校は毎年全国順位を上げているだけでなく、徳島県大会に参加する全ての高校のレベルも年々上がってきている。次年度の本県代表校にも期待したい。

〔課題〕

- （1）組織の円滑な運営に向けて運営方法を再考する。次年度は本研究会2年目のシーズンになるので、各メンバーの役割をより明確化にして、チームで動くことができるようにする。そのために、次年度4月に新規メンバーを募集する。
- （2）教員研修会等への参加者が限られてしまっている。日程の決定や各校への広報の仕方を再考する必要がある。事務局からの連絡は、外部への発信・受信の関係上、県内の先生方への連絡も基本的にタブレットのメールアドレスへ送っているがその確認をしていただけていない先生が多いようである。タブレットのメールの確認を継続してお願いしていきたい。

4 今後の展望

英語指導研究会としては、英語指導について教員が学び合う機会を定期的に提供する。オンラインを活用し、輪番制で各授業実践の報告、自分の学びの報告（言語習得等）、文献・英文記事輪読会等、参加した結果、生産的かつ授業実践に活かすことができるセミナーを数多く提供したい。そのためには、先進的な活動を行っている中教研との連携も検討したい。中高のつながりをより密にすることで、徳島県英語教育の発展に貢献できると考えている。

また、運営スタッフ自身が世界基準の英語指導に精通できるようにスタッフの学びの会を定期的にとり、先生方のニーズに合わせた企画作りに励み、徳島県全体の英語教育熱を熱くするムーブメントを起こしていく。英語ディベート指導に関しては、ALT の理解を促し、さらに県内私学とも連携を図りながら、徳島県全体でより一層取り組みたい。そして、四国地区のディベート先進県として、四国全体に徳島県から輪を広げ、四国全体の英語教育を盛り上げる一助になりたい。

5 終わりに

本年度新規に発足した本研究会だが、昨年度と同様、県内外の多くの先生方のサポートをいただき、無事に活動を行うことができた。今後も徳島県英語教育の発展に向けて、謙虚に組織的にかつ継続した活動を行なっていきたいと思っている。新学習指導要領が始まり、検定教科書のスタイルもこれまでとは異なり、世界基準のテキストへと少しずつではあるが変化してきているように感じる。そのために、その教科書を用いて、どのように効果的に指導するのかは教員の手腕にかかっているように感じている。教員が自分の英語運用能力を高めつつ、日々英語指導に向き合いながら、手法や手段を含めた英語指導全般について主体的に思考を深めるための環境作りに今後も貢献できれば幸いである。次年度も徳島県の英語教育の発展に向けて、常に新しい風を吹かせていきます。

さて、今年度も無事に活動を終えられたのは、ディベートのセミナーやジャッジ、大会運営を引き受けてくださった先生方、英語授業セミナー等の講師をしていただいた先生方、小林学会長をはじめとする徳島県外国語学会所属の先生方のおかげである。この場をお借りしてお礼を言わせていただきたい。

皆さま、今年度はご協力ありがとうございました。次年度もどうぞよろしく願いいたします。